



平成 31 年 2 月 22 日

各 位

会 社 名 株式会社トライアイズ
 代 表 者 代表取締役社長 池田 均
 (コード 4840 JASDAQ グロース)
 問 合 せ 先 執行役員総務部長 小出 美紀
 電 話 0 3 (3 2 2 1) 0 2 1 1

(訂正)「平成 30 年 12 月期連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ」

の一部訂正について

平成 31 年 2 月 15 日に公表いたしました「平成 30 年 12 月期連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ」の記載内容一部訂正がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。

1. 訂正の理由

「2018 年 12 月期 決算短信[日本基準] (連結)」の提出後に、記載内容の一部に誤りがあることが判明したため、決算短信の一部訂正に伴い訂正いたします。なお、訂正箇所については下線を付して表示しております。

2. 訂正の内容

【訂正前】

平成 30 年 12 月期連結業績予想と実績値との差異 (平成 30 年 1 月 1 日～平成 30 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株 当 たり 純 利 益
前回発表予想 (A)	1,550	1	2	△61	2 円 11 銭
実 績 (B)	1,512	△26	<u>△58</u>	△131	△15 円 74 銭
増 減 額 (B - A)	△38	△27	<u>△60</u>	△70	—
増 減 率 (%)	△2.5	—	—	—	—
(参考) 前第期実績 (平成 29 年 12 月期)	1,777	△109	△53	135	16 円 03 銭

【訂正後】

平成 30 年 12 月期連結業績予想と実績値との差異 (平成 30 年 1 月 1 日～平成 30 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株 当 たり 純 利 益
前回発表予想 (A)	1,550	1	2	△61	2 円 11 銭
実 績 (B)	1,512	△26	<u>△23</u>	△131	△15 円 74 銭
増 減 額 (B - A)	△38	△27	<u>△25</u>	△70	—
増 減 率 (%)	△2.5	—	—	—	—
(参考) 前第期実績 (平成 29 年 12 月期)	1,777	△109	△53	135	16 円 03 銭

【訂正前】

経常損益については、営業外収益に計上している有価証券利息が当初の予想を下回る結果となったほか、営業外費用に計上しているデリバティブ評価損が期末時点において減少し、利益方向になると予測していたものの、期末時点において評価損を計上する結果となり、営業損失を補完するに至らず、経常損失を計上する結果となりました。

また、前述のとおり建設コンサルタント事業及びファッションブランド事業の収益性が悪化したことに伴い、不採算な拠点の統廃合を当連結会計年度において実施した結果、店舗閉鎖損失を特別損失として計上し、ファッションブランド事業における固定資産については減損損失を計上いたしましたほか、繰延税金資産を取り崩すことといたしました。これらにより、特別損失及び税金費用が当初の予測を超えることとなり、当期純損失が当初の予測を上回る結果となりました。

【訂正後】

経常損益については、営業外収益に計上している有価証券利息が当初の予想を下回る結果となったため、営業損失を補完するに至らず、経常損失を計上する結果となりました。

また、前述のとおり建設コンサルタント事業及びファッションブランド事業の収益性が悪化したことに伴い、不採算な拠点の統廃合を当連結会計年度において実施した結果、店舗閉鎖損失を特別損失として計上し、ファッションブランド事業における固定資産については減損損失を計上いたしましたほか、繰延税金資産を取り崩すことといたしました。このほか、当連結会計年度に償還された金融商品に係る償還損失を特別損失として計上いたしました。これらにより、特別損失及び税金費用が当初の予測を超えることとなり、当期純損失が当初の予測を上回る結果となりました。

以上